

## 「技術を未来につなぐ」

### Connecting Technology to the Future



執行役員（開発本部 副本部長、  
商品企画センター長）  
藤田 佳幸  
Yoshiyuki Fujita

私の故郷は四日市の山側に位置するのどかな田舎町。昭和36年から18年間毎日きれいな鈴鹿山脈の山々を見ながら過ごしました。しかし眼下に見える海側では恐ろしいことが起こっていたのです。四大公害病の一つ、四日市ぜんそくです。石油化学コンビナートから排出される亜硫酸ガスが多く、地域住民を恐怖に陥れました。私の小学校にも多くの児童が避難のため転校、ぜんそくに苦しむ友達と共に学校生活を過ごすことになりました。経済成長を最優先したばかりに引き起こされた深刻な社会問題を、まさに身近で経験した少年時代でした。

あれから半世紀が過ぎ、世界は大きく変わりました。モータリゼーション、IT革新、エネルギー革新等により随分と便利な世の中になりました。しかしながらその代償として世界中で負の遺産が増え続け、様々な格差問題、地球環境問題が目に見える形で生活を脅かしています。根本的には「あの頃」と何も変わっていないのです。

今回テーマに取り上げたSDGs（Sustainable Development Goals）は国際連合が、国際社会とりわけ企業に対し、地球課題に対する17のゴール、169のターゲットを2030年の期限を持って明確に示したもので、これは長年変わらなかった企業経営モデルを変える羅針盤として大いに期待が持てます。CSV・ESG経営に注力してきた豊田合成にとっても、一段とその活動を加速し企業価値を上げ、持続的成長につなげるチャンスです。一方、技術開発の果たすべき責任と役割は非常に重くなりました。これ以上負の遺産を生まない製品開発・生産技術開発に取り組むことはもちろんですが、加えて目標9「産業と技術革新の基盤をつくろう」への取り組みと具現化が不可欠です。社会課題解決型の新商品・新ビジネスの創出とそれを実現する革新技術にチャレンジし、究極のゴール「SDGsがない世界」に一歩でも近づけるよう貢献しようではありませんか。

きれいな地球を取り戻し、誰もが安心して暮らせる社会の実現は、わたしたち技術者にとって非常に意義のある取り組みと同時に使命だと認識すべきです。

なお、今回の特集にあたり、弊社社外取締役の松本真由美様よりSDGsの背景と最新動向について専門家の見地からご寄稿いただきました。技術者に対する期待、提案もたくさんいただいていますので、熟読の上今後の取り組みに活かすことを期待します。